

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

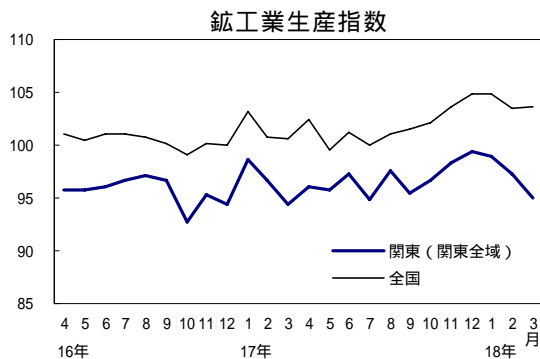
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、デジタルフルカラー複写機関連の主要工場が他地域に拠点を移したことにより、5四半期ぶりに減少した。化学は、化粧品が好調であったが、石油化学製品製造用触媒が低調であったため、引き続き堅調で横ばいとなった。輸送機械は、乗用車ボディの製造が低調であったため、減少した。情報通信機械は、新製品の発売に向けて携帯電話が伸びたが、パソコンの変復調装置が低調であったため、おおむね横ばいとなった。電気機械は、高水準で推移しているものの、半導体・IC測定器が低調であったため、4四半期ぶりに減少した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年3月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

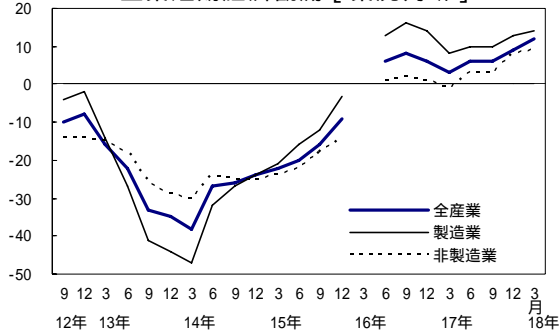
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	13.8	3.0	1.3	2.7	3.3
化学	13.7	0.2	0.2	0.4	4.8
輸送機械	11.3	1.7	4.6	7.3	4.1
情報通信機械	8.6	13.8	0.0	2.6	11.6
電気機械	7.9	3.1	2.1	2.9	8.7
鉱工業	100.0	2.2	1.0	2.3	0.3

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 1~3月期の化学の生産、出荷は、1月、2月確報値の平均より算出。在庫は、2月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

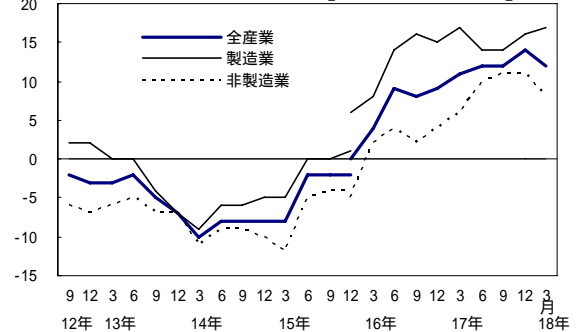
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
関東全域(新潟県を含む)

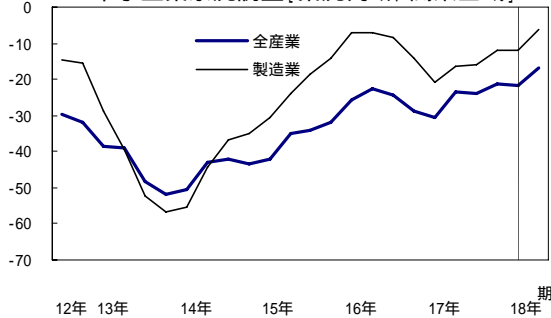
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「受注量は前年同時期に比べどの品種も増加傾向だが、原油価格高騰によるコスト上昇分を、競争力維持のため価格転嫁できず利益につながらない(プラスチック製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

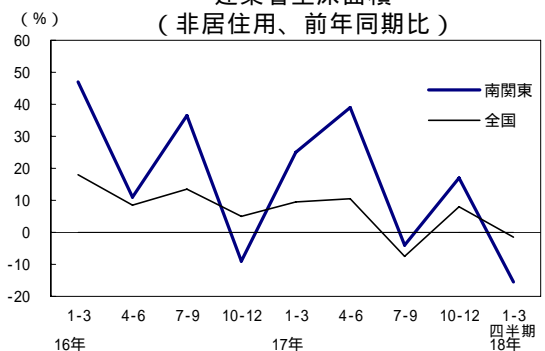
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績見込み	18年度見通
全産業	26.6(0.7)	3.8
製造業	29.3(2.0)	5.2
非製造業	18.9(3.1)	0.8

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

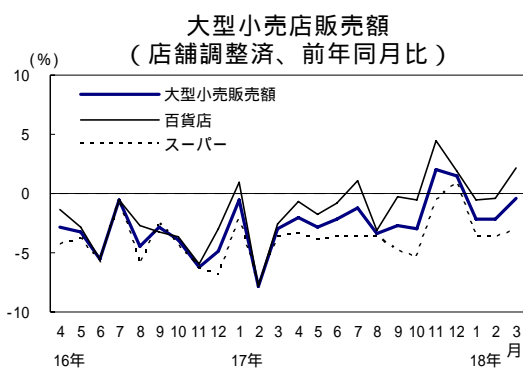
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売り等により衣料品や身の回り品等が好調であったが、週末の降雪による来店客数の減少等により、3か月ぶりに前年を下回った。2月は、バレンタイン効果もあり、飲食料品等に動きがみられたものの、前年に比べ土曜日が1日少なかったこと等から、2か月連続で前年を下回った。3月は、家具や家電等の家庭用品が引き続き低迷したものの、気温が高めに推移したことや、改装セール等により、衣料品や身の回り品が好調に推移したことから、3か月ぶりに前年を上回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の4月の売上高は前年同月比0.5%減となっている。

スーパーは、主力である飲食料品が期を通じて伸び悩んだことから、3か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

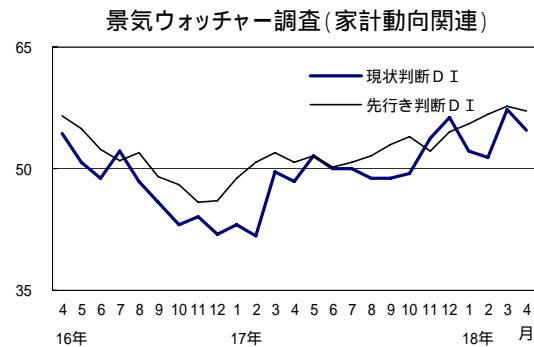
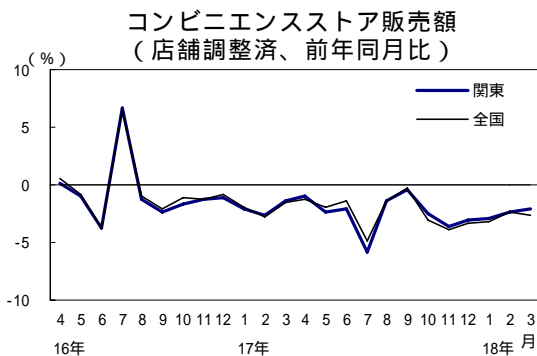
「週末の天候の崩れが重なり、やや苦戦しており、特に低温のため季節家電に勢いが無い。テレビ関連は好調であり、サッカーワールドカップ直前の盛り上がりの可能性と共に、地上デジタル放送対応HDD付きレコーダーが好調である(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月
大型小売店	2.4	2.3	0.3	1.5
百貨店	1.1	0.5	1.9	0.4
スーパー	3.6	4.1	1.5	3.5
コンビニ	1.8	2.6	3.0	2.4
景気ウォッチャー	50.0	49.2	53.2	53.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。18年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域。

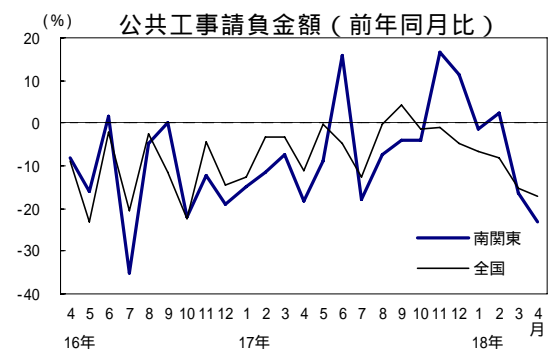
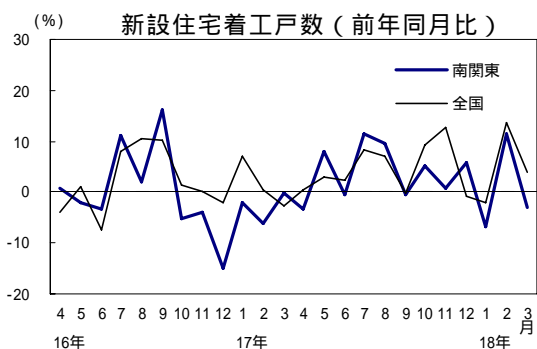
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

給与、分譲が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

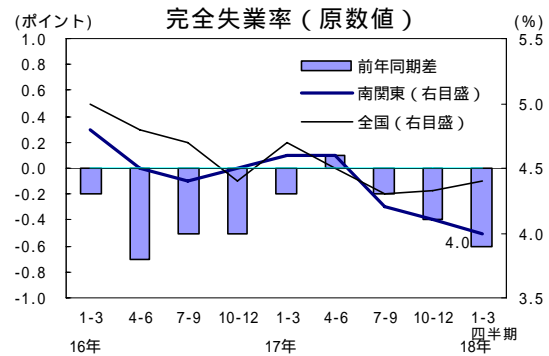
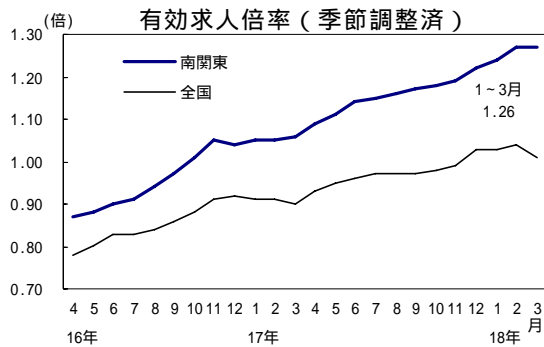


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連 (現状)]

「求人案件がかなり増加しており、採用数も増加している。以前よりも採用の判断や決定が早くなるという傾向がみられる。企業も中長期的な観点から、人材のポテンシャルがあれば採用するようになってきている (民間職業紹介機関)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

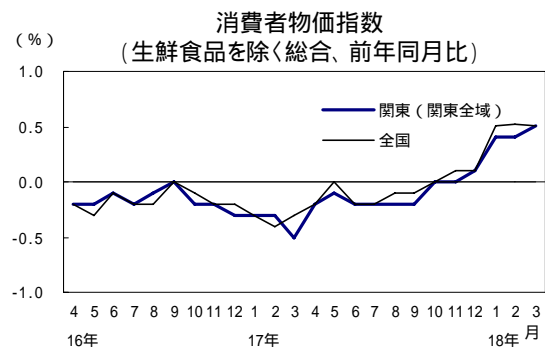
(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばいとなっているが、負債総額は減少している。

4月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月	18年4月
倒産件数	915	897	944	960	285
(前年比)	14.9	16.9	6.3	2.1	4.4
負債総額	4,466	4,539	9,657	4,866	2,382
(前年比)	40.8	37.4	36.4	25.3	115.8



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・サラリーマン層の夕方以降の来客数が増加している (パチンコ店)

<先行き>

・採用担当者の来校が多く、どの企業も予定人数の確保に必死である (学校 [専門学校])

景気ウォッチャー調査 (合計)

